

「つながり」を大切に

「検温」「サーモグラフィー」「こまめな手洗い」「マスク」「隔離生活」「PCR検査」。去年の今頃は、このような事態になるとは、誰もが予想していませんでした。

1月13日、広州日本人学校の登校日は、150日目を迎えました。これまで当たり前だったことが当たり前でなくなり、人と人との「つながり」の大切さに気づくことがたくさんありました。

例えば、日本にいる児童や現地校、日本人学校同士の交流はオンラインで行うようになりました。直接会えない今だからこそ、相手を意識し伝わりやすいようにと話す様子は、今年度ならではの取り組みであり成果ともいえます。

また、校外学習では、見学先の中国の方や日本人関係者と「つながり」をもつことで、元気をもらうことができ

ました。小学校1、2年生の広州動物園、3年生のイオンや明治工場の見学と学校のまわりの散策、4年生の白雲山登山、5年生の中山への宿泊学習、6年生の佛山への修学旅行、中学1年生の深圳への校外学習、中学2年生の佛山への修学旅行、中学3年生の保育実習。運動会のPTA種目では保護者と「つながり」、パワーもいただきました。どの行事もいろいろと工夫しながら実施することができ、新たな価値を得るとともに、たくさんの人と「つながり」を感じることができました。

150日目を迎えた現在、5月11日の開校当初の児童生徒数からみると、約3倍の児童生徒数になっています。今だからできる皆との「つながり」を大切に、今年度の残された期間を児童生徒たちと共に歩んでいきたいと思ひます。

